

外国人が賃貸を利用するときの問題点について

3年5組5番 浦久保咲希

<はじめに>

私は外国人が「日本で賃貸を借りる上で起こる問題」について探究している。高校入学当初の私は、海外のことを自分とは関係のないことだと考え興味や関心を持つことがなかった。しかし、1、2年生で行ったグローバル探究の授業が世界のことに興味を持つきっかけとなった。1年生では今後探究していく上で基礎となるようなことから探究を進め沢山の知識を得た。2年生では自分たちで立てたテーマを元に子供の貧困や食品ロスなどについて探究した。その国の背景を知りそこから自分で立てた課題の解決の方法を考えることが出来た。また今まで目を向けていなかったことを自分事として考えることが出来るきっかけとなった。そこから世界で起こっていることについてより深く知りたい、広い視野を持ち異文化を理解したいと思うようになり海外のことに興味を持った。そこで、「グローバルが生み出す力」のゼミに入り自分で行動し自分の目で世界で起こっていることを見て知りたいと思いこのゼミを選択した。

<国際結婚に関する問題点>

探究していくテーマを設定する時に日々グローバル化が進んでいる世界で国籍が違う人と結婚することは当たり前になり現在よりも私たちの身近なものになると考えた。多国籍が溢れかえる社会に対応していくには異国の文化や宗教、見た目による差別など正しい知識を学び勝手なイメージによる偏見をなくしていく必要があると考える。日常生活の中でテレビやSNSの世界には間違った情報が溢れている。例えば、そこから偏見が生まれ、不快な想いをするようなコメントも実際に目にした事があるし、私と同じ経験をしたことがある人も少なくはないだろう。しかし私自身もこの国や地域にはあまり良いイメージがないなど、実際自分の目で見た事がないのに、ニュースやインターネットで取り上げられている場面だけで偏見を持ってしまっていることにも気づいた。国際結婚ではこれまでに取り上げた様々な問題が起こり得ると考えそれらのことを探究すれば、グローバル化が進む社会に柔軟に対応することが出来、文化や宗教、境遇が違えど互いのことを尊重し理解し合うことが出来ると考えた。これらの理由から当初は「国際結婚の問題と解決について」をテーマに取り組んだ。しかし、探究を進める中で外国人労働者と日本人との給料の差、日本人が持つ外国人に対しての偏見や距離感、習慣の違いなどの外国人が日本に住む上での賃貸の問題が出てきた。国際結婚をする、しないに関係なく外国人が日本に在住するならば必ず立ち足る問題が賃貸に関する事だという結果に至った。そのため探究テーマを「外国人が日本で賃貸を借りる上で起こる問題」に変更し探究を進めた。

<賃貸に関する問題点>

外国人が賃貸を借りる上で起こる問題についてを調べると様々な問題が出てきた。インターネットで調べたところ外国人という理由だけで賃貸を借りるのを断られる、ゴミ出しのルールを守らない、家賃を堪能する人が多い、未納のまま帰国してしまう、騒音のトラブルなどが主にあがった。

<研究方法>

探究するにあたって、日本に住む外国人の賃貸の問題についての調査方法を計画した。まず初めに、インターネットなどで今起こっている賃貸の問題を調べた。どんな問題が起こっているのかを、日本人からの目線と、日本在住の外国人の方の目線での、双方の現状を調べた。そこで出てきた問題を元にインターネットの意見だけでなく、実際に日本在住の外国人の方々にインターネットで出てきた、困っていることや距離があると感じたことなどをインタビューやアンケートを実施して、その問題が実際に起こっているのか、その他にも問題があるのかを知り、そこから解決方法を考えることにした。インターネットで調べたところ、在住の外国人からの問題は、一部の賃貸は外国人も住めると書いてある所しか借りることができない、保証人がいない、そして、

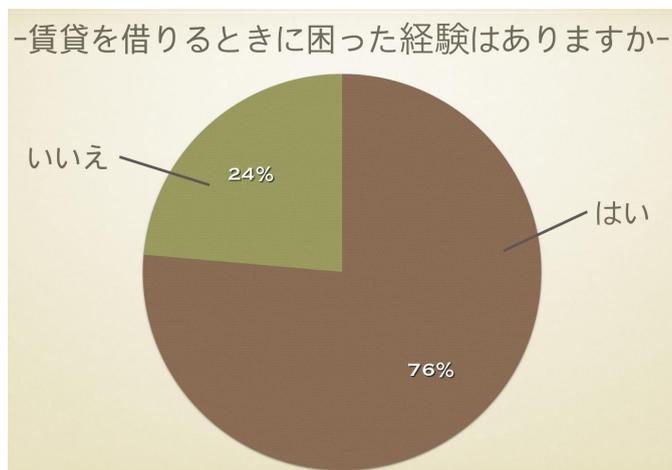
外国人という理由だけで入居を拒否されるという問題がでてきた。また、日本の大家さんからの問題では、夜中などでもうるさかったりする等の騒音のトラブル・ゴミの分別をしなかったり、ゴミの日でもないのにゴミを捨てている、指定のゴミ入れにいれないなどのゴミ出しのルールを守らない・未納のまま帰国してしまう・という問題がでてきました。これらの問題は大家さんと外国人とのコミュニケーションがとれていない事や日本独自のルールを未だ理解できていない事が理由だと分析した。

<インタビュー、アンケート>

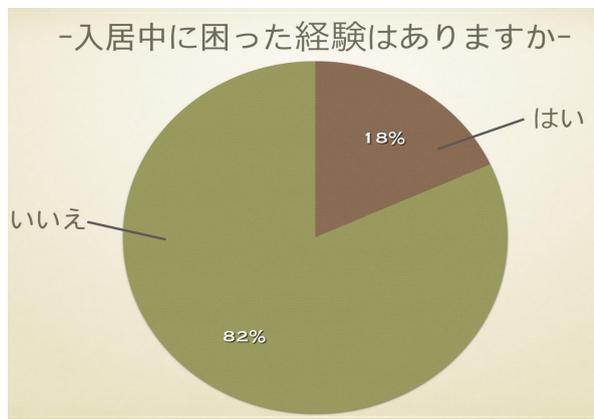
インターネットから出てきた問題を元に6つの質問を在住外国人の方にアンケート、インタビューをした。日本で賃貸を借りるときに困った経験、入居中に困った経験、日本で賃貸を借りるのは怖いか、入居中にあれば便利だなと思うもの、入居中にあって良かったもの、入居中の説明やルールでいまだに分かっていない事の6つの質問をした。アンケートは60人以上の方に、インタビューでは4名の幅広い年代の方々に協力してもらった。

出身国はアメリカの方が多く傾向にあり、日本の滞在歴は様々だが、15年から22年以上が比較的多かった。日本での仕事は英語関係で働いてる方が多く、英語の先生、ALTの方などだ。

一つ目の質問の日本で賃貸を借りるときに困った経験はあるかと質問したところ、「はい」と答えた方が76%だった。

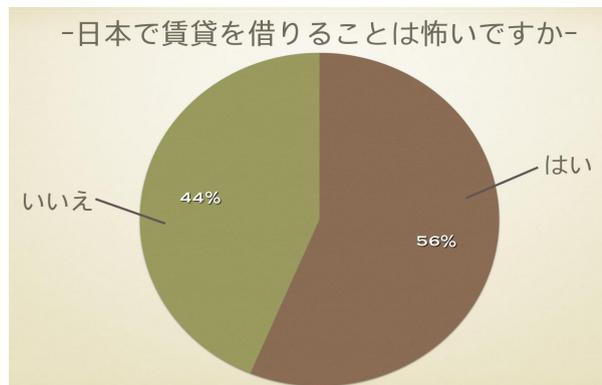


「はい」と答えた方々の意見では、不動産屋で外国人という理由だけで断られた。同性カップルである事を理由に断られた。保証人を探すのが難しいため。高額な入居金に驚いた。日本語を話したり読むことができなかったため入居を断られた。外国人を受け入れる場所を見つけることが難しい、ということだった。次に日本で入居中に困った経験はあるかと質問したところ「はい」が18%と入居中には困っている方は少ないことが分かった。



「はい」と答えた方の意見は、鍵と敷金がどのように機能するのが分からない・家賃を支払うタイミングが分からない・アパートに家具や家電が付いていなくて驚いた・電気会社に連絡しなけ

ればいけない事を知らなかった・自分はきちんとゴミを捨てたのに住民が、外国人だから、という理由で自分のせいにされた、ということだ。3つ目の日本で賃貸を借りることは怖いかと質問すると、「はい」が56%、と怖いと答えた方が、比較的多い結果となった。



その理由としては、・コミュニケーションがとれないため・規則が分からないから・断られる可能性があるから・アパートを探すときに人種差別があるから・隣人からくじょうやトラブルが発生する事があるから・すべてのルールが分からないから・頻りに引っ越すとクレジットカードや永住ビザが、拒否される可能性があるからなどだった。4つ目のあれば便利だと思うことは、家電などに複数の言語で簡単な説明を掲載してほしい・費用、インターホン、宅配ボックスなどの細かい説明・日本のルールを全て分かりやすく説明してほしい・最低限の簡単な英語でのルール説明や契約書・公園やコンビニなどが乗っている大まかな地図・日本に保証人が居ない人に向けてサポートする会社があれば便利という意見があった。あつてよかったものは、不動産の方や、引越し会社の従業員の方が親切だったこと・日本で書かれたゴミのルールなどを説明する紙をもらったこと・家主が親切だったこと・などと、人とのコミュニケーションや、親切さが外国人の方たちの助けになっていることがわかった。5つ目の入居中の説明やルールで未だに分かっていないことは、・ゴミやリサイクルのスケジュールを理解する事が難しい・引っ越す際に近所の方に自己紹介の贈り物を持って行くこと・保証人の個人情報が必要なこと・電気がないこと・礼金の制度は未だになぜあるのかなどでだった。

<解決方法>

これらのことについて考えた解決方法は、・契約内容に表記する言語の種類を増やすこと・日本のルールを知って理解してもらうこと・そして大家さんや近隣の住民の方々とのコミュニケーションを沢山とり、この家の近くに何があるのかを知る事も大切ではないかと考えた。また、外国の文化を理解して外国人に対する先入観や偏見をなくし、相手の事をよく知り、私たちから歩みよる事が解決する道に繋がるのではないかと考えた。その方法は多言語対応のウェブサイトを作り外国人が困っている賃貸の問題と解決を掲載することだ。初めは、パンフレットを作成し、賃貸の問題と解決についてのパンフレットをSNSで外国人の方に向けて発信したり実際に設置しようと考えていたが、パンフレットでは紙を多く使用しなくてはならなかったり、設置場所などの問題や、目に入らずに手に取ってもらいづらいなどの問題点が見つかった。そこでパンフレットではなく、SNSで簡単に共有しやすいウェブサイトと設置場所に困らないポスターを作ることが外国人の方々の助けにならないかと考えた。ポスターの内容としては、奈良県の写真と一緒に学校名、WebサイトのQRコードを貼り、外国人の方が読みやすいように、平仮名で掲載し、多くの外国人の方がこのwebサイトを見つけられるようにした。設置場所は、ポスターで場所も取らないため駅や不動産などで貼らせて頂けないかと考えている。

<webサイト>

自分達についてやその思いを掲載し、次に奈良県専用のゴミの日にちが載っているアプリの紹介から、自分の地区の設定方法等を説明した。そして、大まかな簡単な契約内容、保証人会

社や、不動産、外国人サポート会社などの電話番号、奈良市のマップのURLを掲載した。しかし、掲載しなければならないことがまだ沢山あるため準備中だが完成すれば必ず外国人の方々の助けになると考えている。

<探究のまとめ>

探究してきた内容は学生の私には簡単に解決できることではなかったが、様々な日本の課題点を見つけ解決方法を考えることができた。探究し始めた当初は日本で賃貸を借りる方法が海外と違っていたり、敷金などの海外にはない制度があるために起こっている問題がほとんどだと思っていた。しかし実際は言葉が通じないや異文化の理解が足りないなど問題は様々だが、勝手な偏見や先入観から起こっている問題が沢山あった。日本人はこうである、外国人はこうであると互いに勝手なイメージを持ってしまっているが故に生きづらい世の中になってしまっていることが分かった。日本人も外国人も互いに対しての正しい知識がないために価値観のずれを感じたり気づかないうちに差別が起こっていた。課題を解決するには日本の賃貸を借りる制度を海外の人でも理解しやすいように変えるか先入観をなくし一人一人の意識を変えることだと考えた。

<これから>

制度を変えることは今の私には大きすぎる課題で不可能に近いだろう。けれど先入観や偏見を無くしていくことは時間がかかったとしても出来ることだと思う。私は今回行った探究活動のおかげで将来の夢ができた。将来は海外を拠点に日本語教師として働きたいと思っている。教えた生徒が探究で見えてきたような常識や習慣が分からないため困ったり言語の違いで不便を感じてしまわないために日本に外国人が行った際に困らないような手助けができる人になりたいと考えている。高校卒業後は夢の実現のため、そして今回行った探究活動の問題を解決していくために大学では異文化理解を深め人に伝えていくためコミュニケーション能力を上げること、外国人に寄り添うため英語能力を上げ様々なことに挑戦していくつもりだ。大学在学中には留学に挑戦し実際に外国で生活をしてみてどんなことに困り、海外に行き私自身が外国人という立場になり外国人は実際どんな風に見られているのかを体験し知りたい。また多種多様な人種と関わることで異文化に触れ豊かな価値観を身につけていくつもりだ。在学中に沢山の人の人と関わり異文化や習慣などの違いを発信していこうと考えている。探究中に問題を解決することができなかつたりポスターを駅などに貼ることは出来なかったが60人以上の方にインタビューやアンケートを行ったことは初めての経験だったしサイトを1から作成することが出来たためとても良い経験になった。1、2年生での探究活動を生かしてテーマから自分たちで考え活動することが出来たので課題を解決することは簡単ではない事を含め沢山のことが学ぶことができた。誰かを否定したアンケート内容にならないかや高校生の私には現実的に出来ないことがあり沢山の壁にぶつかったがグループで毎回話し合い協力することで沢山の学びを得ることが出来た。この経験を活かして、今後は広い視野で物事を捉え様々なことに挑戦していくつもりだ。